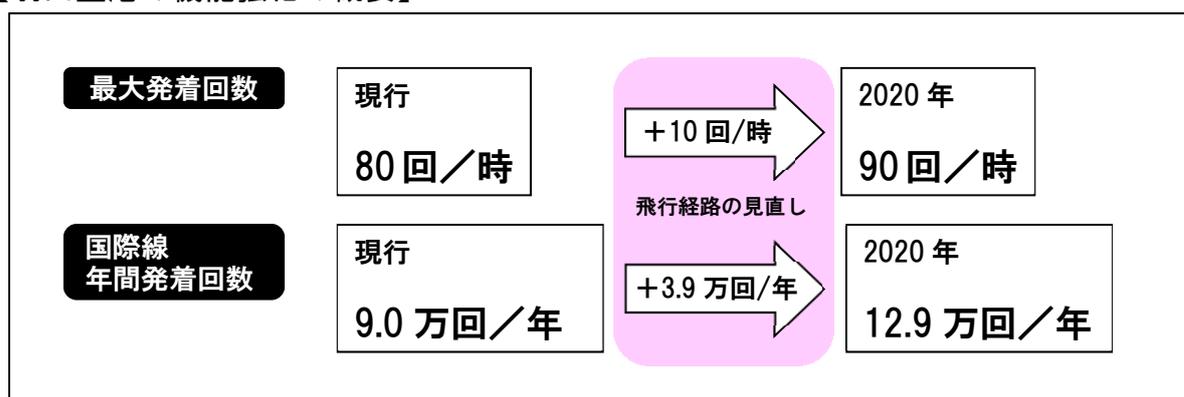


羽田空港の機能強化に伴う飛行経路の見直しについて

1 概要

- 国は、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、羽田空港の国際線発着便数の増加を図るため、現行の4本の滑走路の運用を効率化することを検討しています。

【羽田空港の機能強化の概要】



- 滑走路運用の効率化のため、発着する航空機の飛行経路を変更する必要があり、今年7月に、発着が多い時間帯に限定して適用する案が示されました。【別紙】
- この案において、横浜市域では南北方向に通過する飛行経路が設定されるものの、現在と変わらず高度約1,800m以上の上空を航空機が通過する内容であり、騒音等の環境については大きな変化はありません。

2 横浜市の対応

本市域において大きな変化はありませんが、上記内容については、今後、広報よこはまで市民の皆様へ情報提供します。

(参考1) 国の対応

飛行経路の変更により、高度約1,200m以下で航空機が通過し、影響が大きいと考えられる地域^{*}では、説明会の開催を通じて意見を聴取し、環境影響に配慮した方策を検討することとしています。

※川崎市、大田区、品川区、港区、目黒区、渋谷区、新宿区、練馬区、江東区、江戸川区、和光市、さいたま市

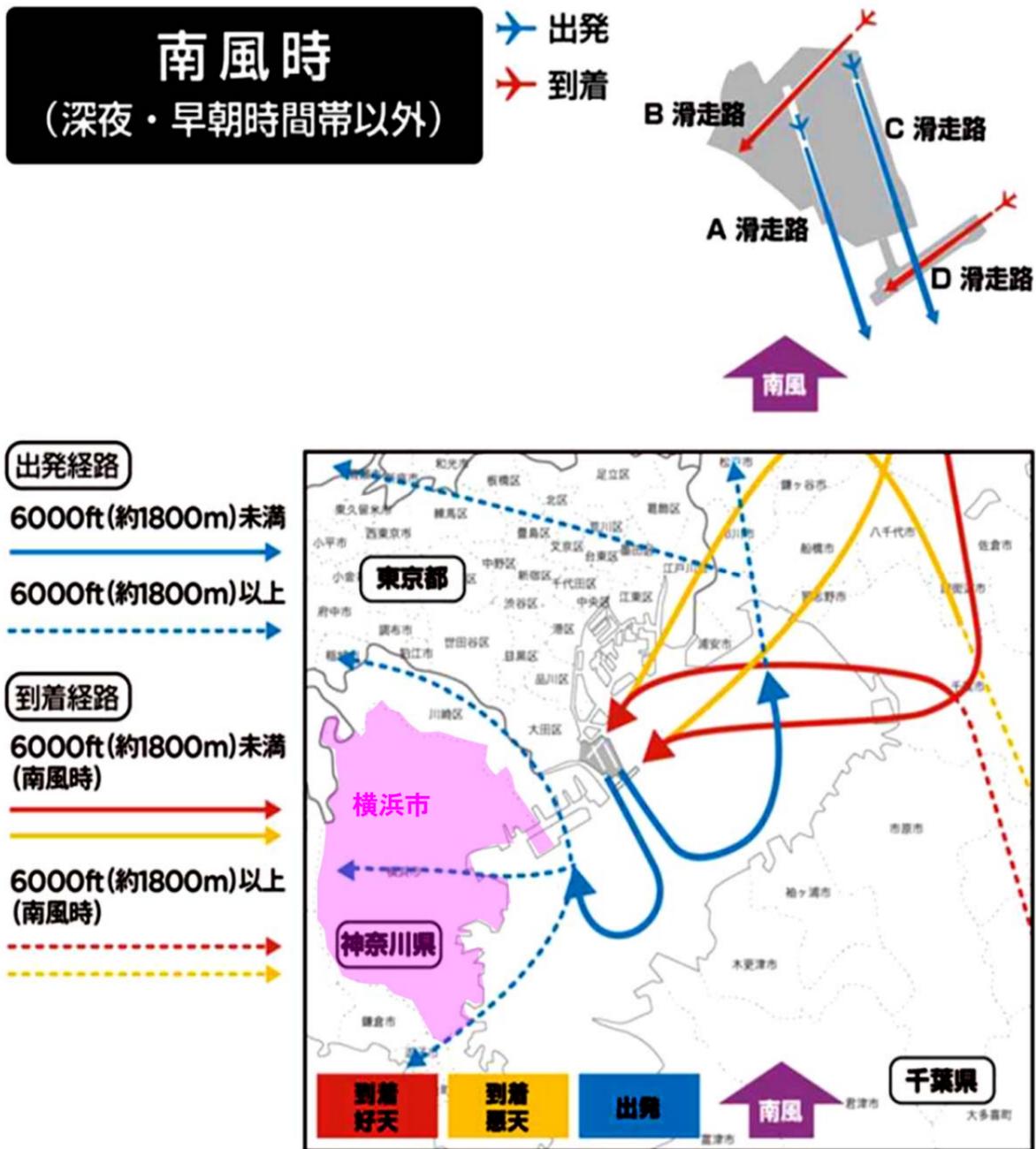
(参考2) 国の機能強化のスケジュール

- 27年7月～ 説明会の開催・意見募集
- 28年夏 環境影響に配慮した方策の策定
- 29年度～ 新飛行経路で運航するための施設整備・防音工事等の実施
- 32年度～ 新飛行経路での運航
(2020年度)

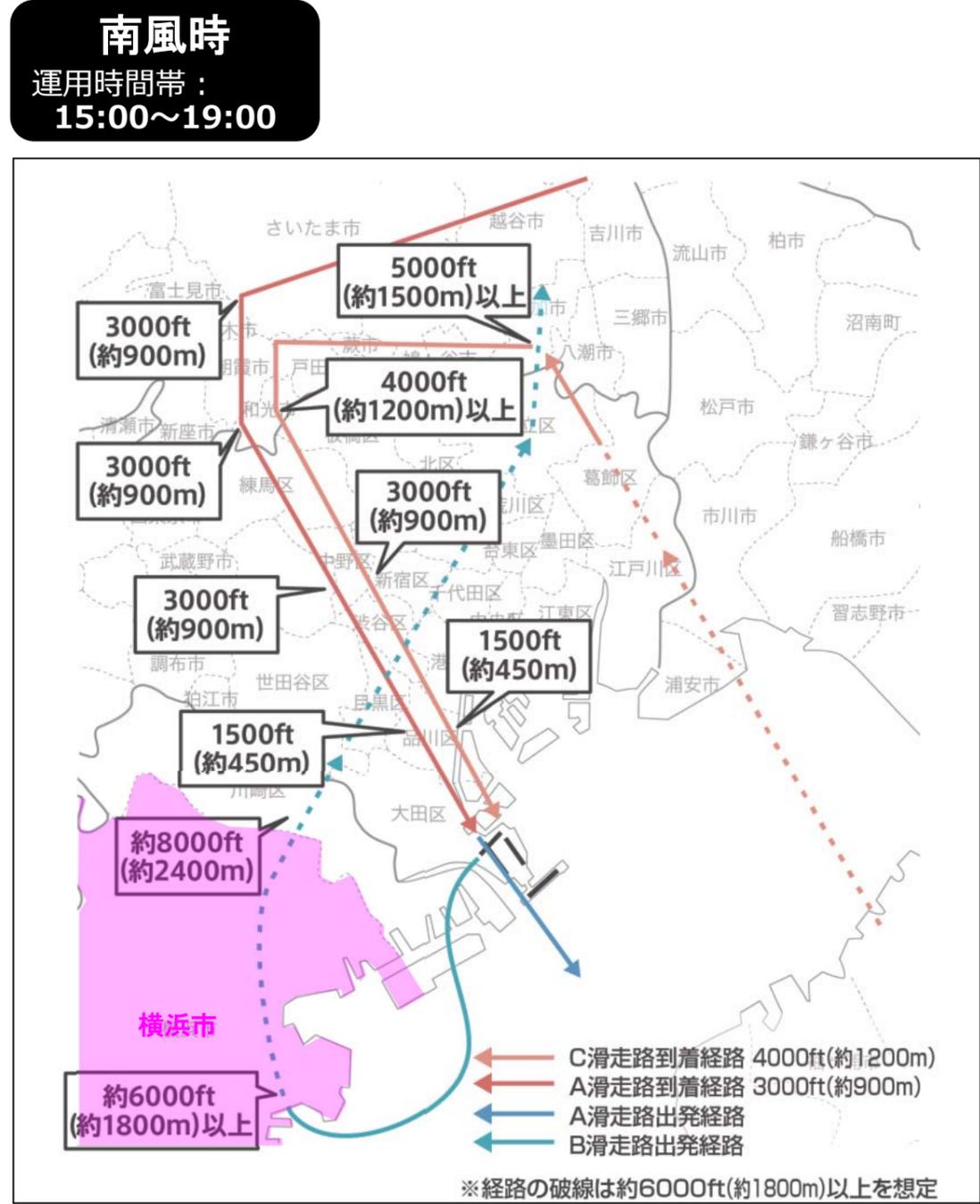
■ 国の提示する新たな飛行経路(案)について

航空機の離着陸は風に向かって行う必要があります。羽田空港では北風時と南風時の2通りの滑走路の運用が行われています。このうち、横浜市域に関連するのは南風時のみです。南風時については、発着のピーク時間帯である15~19時に限って飛行経路の変更を行うことが提案されています。

◆ 現行



◆ 変更案 (時間限定)

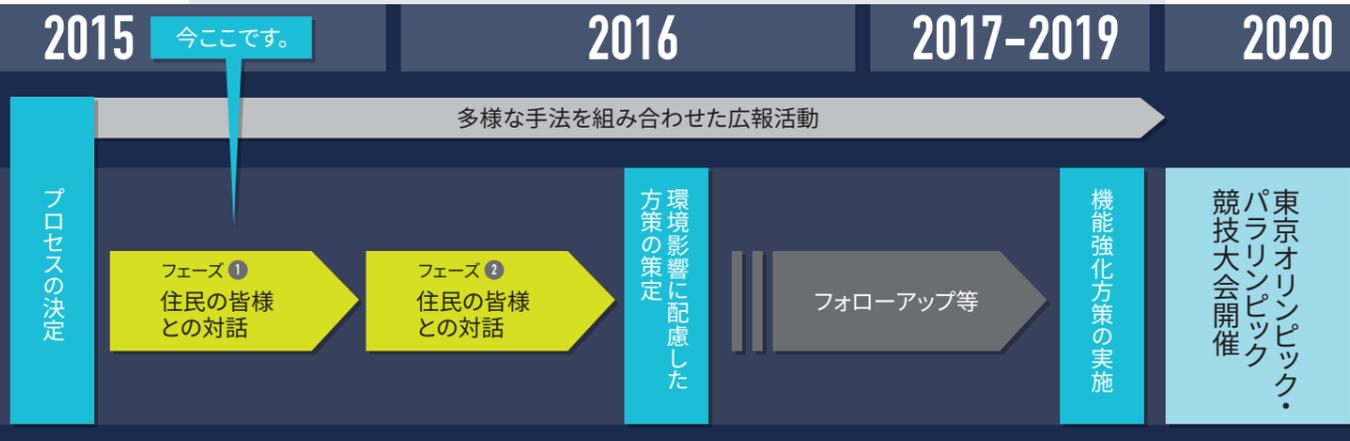


Q5

今後の検討は、
どのように進むのでしょうか？

概ね1年の期間をかけ、
二段階のプロセスに分けて
検討します。

議論を段階的に整理しながら進めていきます。住民の
方々の多様なご意見を伺った上で、平成28年夏まで
に、環境影響に配慮した方策を策定していきます。



- フェーズ1 [必要性や実現方策等]
1 国際線増便の必要性や実現方策等について情報を提供。皆様の声から課題を整理し共有します。
- フェーズ2 [対策や運用方法等]
2 環境対策、新飛行経路の運用方法等、皆様のご意見を伺いながら、環境影響に配慮した方策を策定します。

日本の経済・社会にとって、
とても重要な役割を担う羽田空港。
私たちは、どのような選択をしていくべきでしょうか。
「羽田空港のこれから」について、
皆様の声を是非お聞かせください。

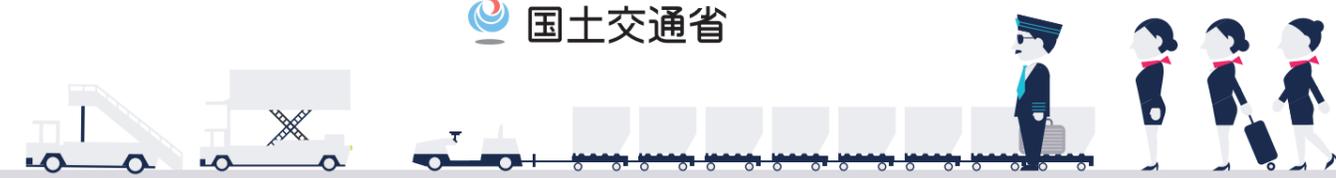
ご意見窓口

国土交通省ホームページに特設ページを設けています。
<http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>
羽田空港のこれから 検索

上記ホームページ内に
皆様のご意見を伺うための
窓口を設置しています。

説明会（オープンハウス型）では、
コメントカードでご意見をお寄せいただけます。
また、コメントカードを
後日郵送いただくこともできます。

電話でのご意見は
Tel 0570-001-160 (IP電話からは、03-5908-2420)
『国土交通省「羽田空港のこれから」に関するご意見窓口』
受付時間：平日 9:30～18:00



羽田空港のこれから

参考資料



FUTURE
OF
HANEDA
AIRPORT

「羽田空港のこれから」について
皆様の声を是非お聞かせください。

国土交通省は、日本の豊かな暮らしを将来の世代に引き継ぐため、
羽田空港の国際線を増便し、世界との結びつきをさらに深めていく
(国際競争力を高める、海外との交流を深める) 必要があると考えて
います。その具体化に向けた検討を進めるにあたっては、まず関係自
治体の協力も得つつ、その必要性や実現方策について、できる限り多
くの方々を知っていただけるよう努めていきたいと考えています。ま
た、住民の方々の多様なご意見をきめ細やかに伺った上で、平成28
年夏までに環境影響に配慮した方策を策定していきます。
「羽田空港のこれから」について、皆様の声を是非お聞かせください。

羽田空港のこれから 検索

Q1

羽田空港とは
どんな空港ですか？

地方と首都圏、
そして世界をつなぐ
大切な役割を
果たしています。

4本の滑走路と3カ所の旅客ターミナル(国内2、国際1)があります。また、都心からの距離はわずか15kmとアクセスも便利です。国内外に豊富な航空ネットワークを有し、首都圏と世界をつなぐだけでなく、羽田空港を通じて地方と世界もつないでいます。

Chart >>>

Q2

なぜ羽田空港の国際線の増便が
検討されているのですか？

日本を発展させていくためには、
日本より一層、海外との交流を
深めていくことが課題です。

国際社会においてグローバル化が急速に進む中、日本の経済・社会を成長させるには、諸外国との結びつきを深める必要があります。しかし日本は、成長著しいアジア諸国と比べて、海外との往来が少ないのが実情です。私たちや私たちの次の世代が豊かな生活を実現するために、国際線の増便が必要です。



Q3

国際線の増便にはどんな
メリットがあるのですか？

海外からビジネスや
観光などでの訪日が増え、
首都圏だけでなく全国を元気にします

ビジネスしやすい環境を整え、首都圏の国際競争力を強化

羽田空港の豊富な国内線と国際線を結び、地方を元気に

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を円滑に開催

より多くの外国人観光客をお迎えして、国内の消費を活性化

しかし現在、羽田空港は深夜・早朝の時間帯を除いてフル稼働。このままでは国際便を増便することはできません。

数字で見る羽田空港

(2014年のデータより)

国内線



利用客
1日約
170,000人



発着数
1日約
1,000回



就航先
48都市

国際線



利用客
1日約
29,000人



発着数
1日最大約
170回



就航先
17カ国
25都市

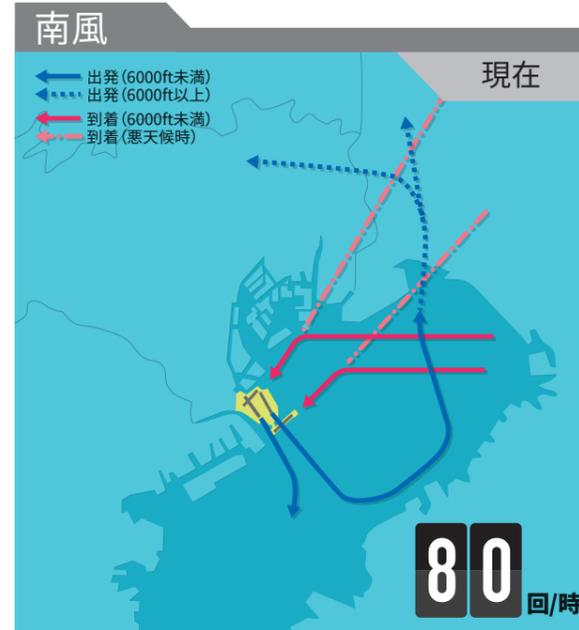
Q4

どのようにすれば
便数が増えるのですか？

滑走路の使い方・
飛行経路を
見直すことにより
国際線の便数を
増やすことができます。

東京湾上空は大変混雑しており、仮に新しい滑走路を作ったとしても、発着回数はほとんど増やすことはできません。新しい滑走路を作らなくても、滑走路の使い方を見直し、これに合った飛行経路を設定することで、発着回数を増やすことができます。

POINT
南風と北風が多くみられる羽田空港では、風向きに合わせて2通りの滑走路の使い方があります。それぞれについて、より効率的な使い方を検証しました。



滑走路の使い方・飛行経路などを見直すことにより、深夜・早朝時間帯以外の国際線について、最大で年間約3.9万回(約1.7倍)の発着回数の増加が可能となる試算となります。